

『武蔵野発  
川つぷち生きものの観察記』

若林輝著  
山と溪谷社 03 67441900  
新書判 288ページ 1100円 21年12月



“境界”で探す  
自分だけの発見

本書は都市部の「川つぷち」の自然観察の記録だ。川つぷちというのは、境界だ。それは人の領域と生き物（他者）の領域の境だ。ただ、普段は、そこが境界だということに気づかず通り

『石と地層と地形を楽しむ  
はりま山歩き』

橋元正彦著  
神戸新聞総合出版センター  
078-136217138  
A5判 128ページ 1980円 21年11月

コロナ禍によってなにかよいことがあったとしたら、足元に目をやるおもしろさに気づかせてくれたことか。

最初の緊急事態宣言のとき、遠出をあきらめ、登山も自粛した。運動不足を警戒し、自宅から徒歩圏内を毎日歩いていた。六甲の山麓に近いので、少し歩くと眺望のいい高台があるし、街と山の境界付近には自然公園もある。住宅街のいちばん上にある登山口をゴールに設定することもあった。来る日

過ぎていくかもしれない。著者にとつて、地元の川つぷちが境界であることに気づいたきっかけは、オオタカがコサギを捕食している場面に偶然出会ったことであつたという。この事件をきっかけに、毎日のように川つぷちを散歩するようになる。これがめつぼうおもしろい。読みながら、なんともうなずく箇所があつた。

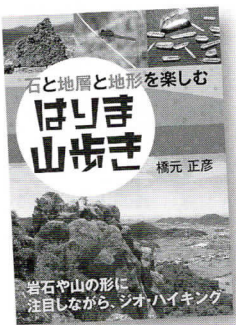
たとえば、自然観察を通じて、「妄想」(仮説ではなく)をわかせることが楽しみを豊かにする秘訣であると書かれているところとか。また、自然観察は発見の連続だけれど、この「発見」は、学会で知られていようが、自分が知らなければ自分にとっての大発見だと言いつつ切っているところとか。著者は水産

も来る日も似たようなところを歩いていたらけれど、不思議と飽きることがなかった。舗装のすき間にも季節の草花が花を咲かせているし、街から見上げる空にも毎日異なる表情があつた。

遠くの高い山はやつぱり憧れだし、まだ見ぬ景色に出会いたい旅への渴望は変わらぬけれど、いつもの景色の中にも、まだまだ知らないことがたくさんある。そんなもののひとつが地質や岩石などの領域。山を歩きながら、これまでも気になることはいろいろとあつたが、専門書を紐解くまでには至らなかった。そんな私にうつつけたのが本書である。「理科の先生が、地学を学ぶ遠足に連れていってくれる」ような感じで楽し

学で修士を修めているものの、現在は編集を生業とし、専門に研究対象としていた淡水魚以外、本書に登場する鳥などの動物についての知識は、ほとんど素人だったという。しかしだからこそ、自然観察を趣味と言う著者のスタンスや文体は、軽妙で、とりたてた専門知識がなかったとしても、明日にでも、自分もどこかで自然を見たくなるような気にさせてくれる。特に川にすむミミズの発見記のくだりは、結末もなにもないのだけれど、こんな身近に知らない世界があつて、その中にずぶずぶと入り込んでいくことはおもしろいのだというメッセージが痛烈に伝わってくる。川ミミズって何者？ぜひ一読を。(沖縄大学学長/盛口満)

める一冊。兵庫県南西部、いわゆる播磨エリアの大地がどのように形成されたのか、太古からの歴史と、山や渓谷に刻まれたその証を目で確かめることができるおすすめコースが紹介されている。温暖で晴天率が高い播磨地方は晩秋から春にかけてがベストシーズンだと思う。本書を片手に、はりまの山歩きに出かけるとしますか。(アウトドアライター/根岸真理)

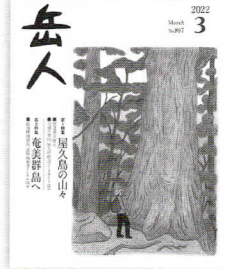


ジオハイキングへの誘い

山岳雑誌 **岳人** 3月号発売中

特集① 屋久島の山々 / 特集② 奄美群島へ

※全国のモンベルストア、書店にて取り扱い / 発売日: 毎月15日 / 価格: 968円(税込)



▶ 年間購読が断然おトクです!

購読割引 | 送料無料 | 限定品プレゼント

お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます!

通常価格12冊 年間購読なら12冊 (1冊分おトク!)

10,560円(税抜) → 9,680円(税抜)

11,616円(税込) 10,648円(税込)